

ネイティブ並みの発音と読文の能力を付ける 2画面
ビデオによる創造的初期英語教育の方法

**Creative method for initial English Language
Education using a two-screen video to attain the
pronunciation and reading abilities of native
English learners**

西浜クリス、江崎通彦

Chris Nishihama, Michihiko Esaki

<http://dtn-wisdom.jp/c/1-ee>

日本の英語教育に関する問題点

英語教育が終了しても

- 英語の発音は海外でなかなか通用しない
- 正しい発音が出来ないため、
 - 正しい発音で話されても、
相手の言っていることが分からない
 - 単語のスペルに苦勞する
- 言っていることが分からない為、今後の進歩
に繋がりにくい

初期の英語教育においてなすべき 3 項目

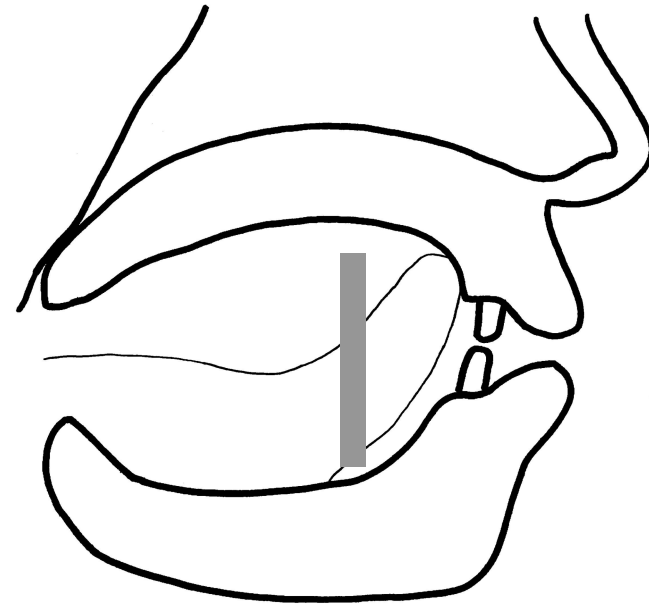
ネイティブ英語を聞き取れ、ネイティブスピーカー並みに正しい発音で読めて、理解できるようになると、ネイティブスピーカーと同じように話し、読み、かつ書くことができる。また、ネイティブスピーカーが発音する英語を的確に聞きとることができるようになる。そのために、初期の英語教育においてなすべき 3 項目は要するに(文献 2)次の通りである。

① 日本語に無い発音に注目

- l と r の違い

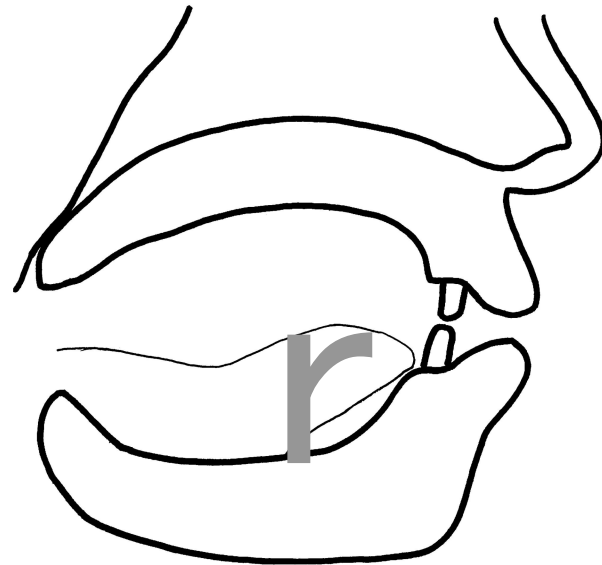
この 2 文字は舌の形をイメージして、発音します。

「1」は舌を上歯茎につけて、「ら」の様に音を出します。



「r」はrの形のように舌を下げて「う」の音を出します。ここでの注意点は、唇を丸くすることと顎を少し引っ込めることです。

r



- ・ b と v の違い

「b」は唇を閉じて、空気の圧力で爆発の様に「ブ」と言います。「v」は下の唇を上の前歯に軽く当てて、「う」を言いながら上前歯と下唇の間で出ている空気を震わせます。

- ・ s と t h の違い

「s」は「ス」と発音する時と同じ様に口の形を整え、声を出さずに空気だけの音を出します。「t h」は舌を上の前歯に当てて、空気を出します。注意点は、舌の先を前歯より前に出すことです。

② Silent E

サイレント E は単語の最後の位置によく出てきます。
この E は発音しません。そして、その 2 つ前の位置
にある母音をアルファベット読みに変えます。

mat

ア

mate

エイ X

③ 正しい母音の発音の優先順位

このルールに従った母音の組み合わせは、11組あります。それぞれ頭の母音をアルファベット読みにして、尻尾の母音は発音しません。

エイの発音

ai ay

エイ ×

エイ ×

(sail, mail, play, say)

イーの発音

ea ee ey

イー ×

イー ×

イー ×

(meat, tea, see, tree, key, monkey)

アイの発音

ie

アイ X

(pie, tie, die)

オーの発音

oa oe ow

オー x オー x オー x

(toast, coat, oboe, goes, blow, know)

ユーの発音

ue ui

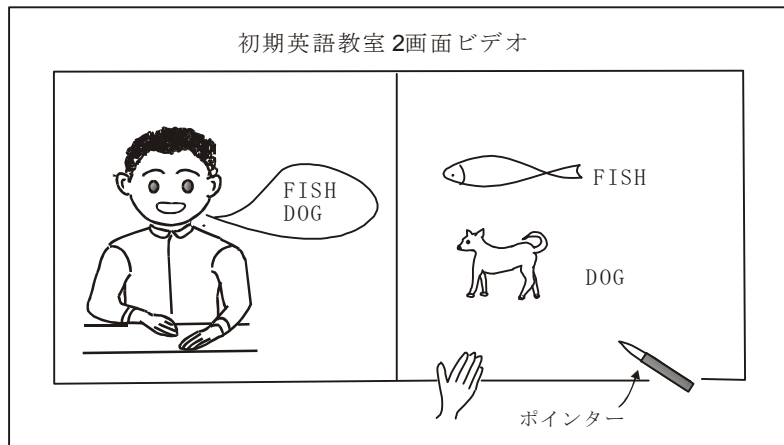
ユー X

ユー X

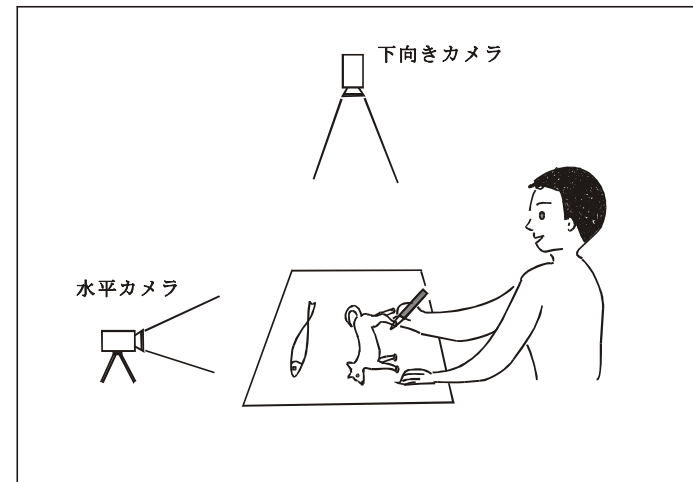
(glue, sue, suit, fruit)

このための基礎となる教育を2画面ビデオにより
効果を挙げているので、その報告をする

1. 具体的な方法の説明



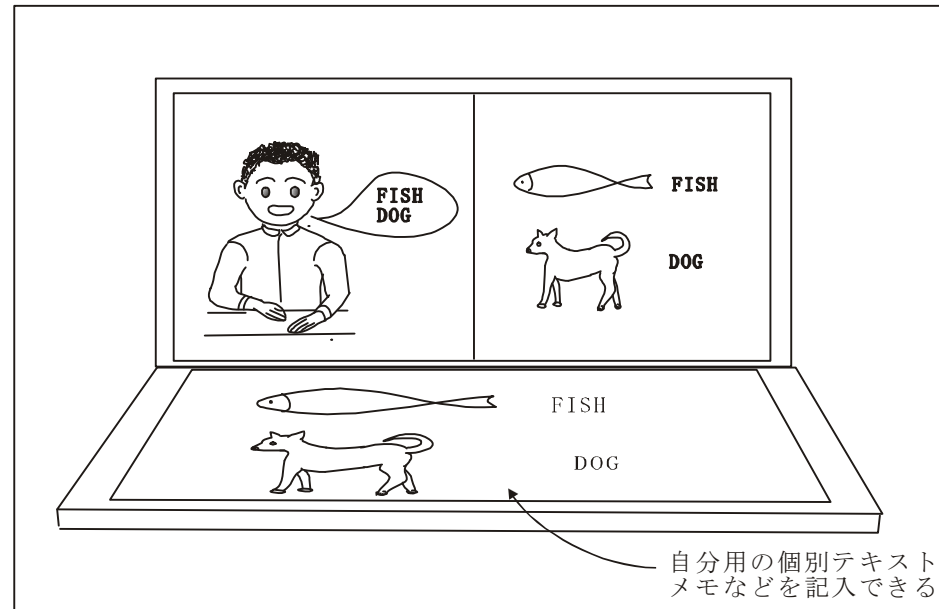
図表1 2画面ビデオの画面



図表2 図表1の2画面ビデオの作り方

概念は、図表1の2画面に示すように左側にはネイティブ発音のできる先生、右側にはそのとき使うテキストの画面を映す。その2画面ビデオの作成の要領は図表2に示すような方法で作成する。

2. この2画面ビデオの使い方

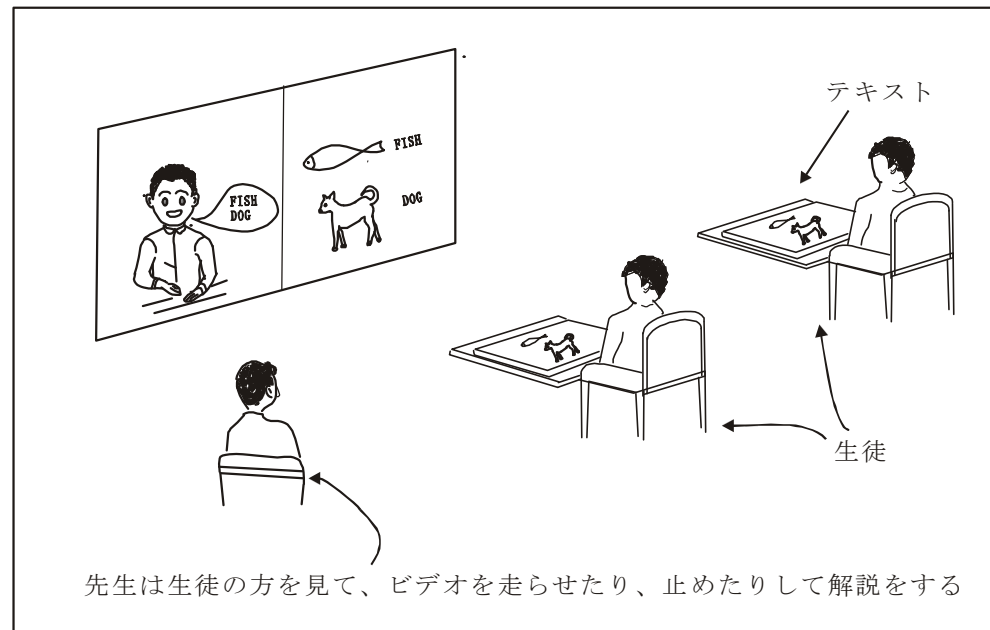


図表3 2画面ビデオの使い方
(この図は生徒側から見たシーン)

図表2で示す方法で作った2画面ビデオを図表3のようにして使用する。これを、次に示すように二つの使い方をする。

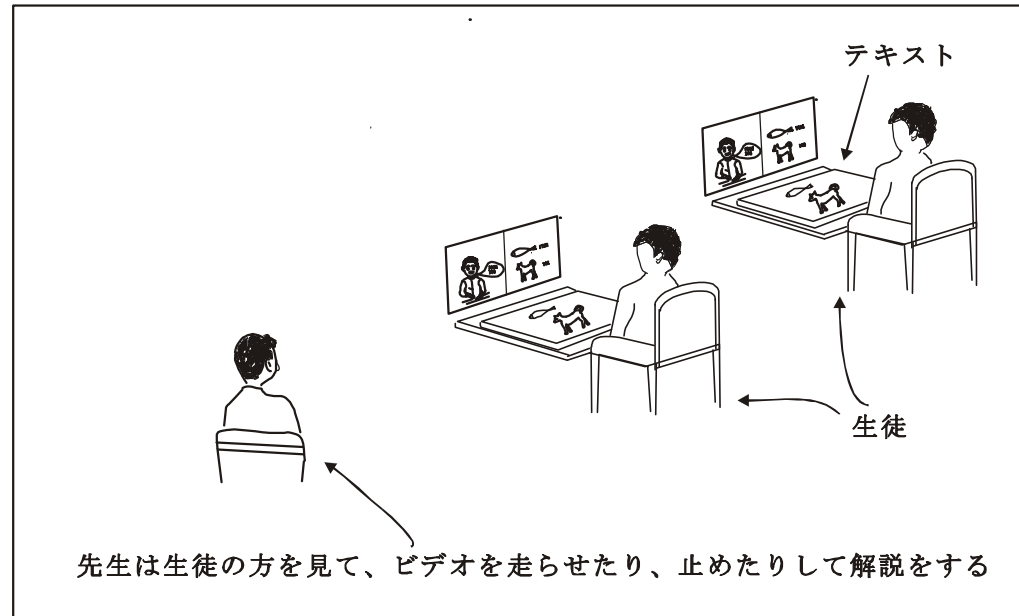
2画面ビデオを使って

- A. 一つの大画面しか映すことができない教室では、図表4のようにして使用する。



図表4 ビデオ画面が一つの場合

B. 生徒の机一つ一つに2画面ビデオスクリーンが置ける場合



図表5 ビデオ画面が机の上の一つづける場合

いずれにしても、ネイティブスピーキングのできる先生、もしくはネイティブスピーキングのできない先生がビデオの操作をして、必要に応じビデオを流したり止めたりして授業をする。また、ネイティブスピーキングのできる先生がいない場合でも、繰り返しによる自習ができるようになる。

「l」と「r」の発音の違いを説明するときのビデオ画面は、

- ① 「l」を発音するときは、前歯の裏側に舌をくっつけてはなすという説明を、先生が両手で形作りながらその発音をして、
- ② 「r」の発音をするときは上腔部に舌をくっつけないで発音をする。
という説明を先生が両手でモデルを作って説明をする。

あらかじめ先生が発音をしながら（画面で正面から口の開き方などが見える）上の①②のような説明をあらかじめネイティブスピーカーの先生の顔を撮っておく。（このネイティブスピーカーの先生は、英語も日本語も流暢に話せる先生の場合が望ましいのだが、日本語をあまりうまく話せないネイティブスピーカーと日本人の先生の二人で、この画面を撮っておく方法もある）。「v, b」と「s, th」の発音の違いについても同じ様な説明をする。

この 2 画面ビデオを使って得られる効果

(1) 先生の側において

一度ビデオを撮って 2 画面ビデオを撮っておくことにより、

- A. 毎度の授業ごとにビデオを止めたり走らせたりしながら重要なことは繰り返し再生して、生徒に練習をさせる。
- B. ビデオを再生しているときは、生徒の個人個人に対してきめの細かい指導のできる時間がとれる。

(2) 生徒の側において

- A. 一度に同じ方向を向いて、先生の顔や手による説明とテキストのどの部分はその説明に対応しているかを一度に見ることができるので、先生に説明してもらっていることが頭に入りやすい。
かつ、自分の目の前に置いてあるテキストにメモなどを書き入れておくことができる。
- B. まだ十分に頭のなかに入れたり、同じ発音ができないときは、繰り返し再生して勉強が繰り返しできる。